



第46回

わたしと人権

入賞者決まる

「人権を守る大津市民の会」では、すべての人がこの大津に住んで良かったと思えるようにという願いと期待を込め、「人権」に視点を当てた活動を続けています。
このたび第46回「わたしと人権」の作品の募集を行い、園児から一般の方々まで幅広い市民のみなさんのご応募をいただきました。
今号は、これらの特別賞の作品を一部ご紹介いたします。それぞれに記された貴重な体験や思い、願いから、自分や他人の人権について考えてみる機会になりましたら幸いです。

ポスターの部 特別賞



* **ほのぼのの賞**
坂本幼稚園 4歳児 平松 実咲さん



* **すこやか賞**
大石幼稚園 4歳児 井上 りこさん



* **ふれあい賞**
膳所小学校 3年 大塚 風実さん



* **さわやか賞**
南郷中学校 2年 中野 結心さん



* **ときめき賞**
富士見小学校 1年 辻 唯奈さん

標語の部 特別賞

ほのぼのの賞

比叡平小学校 6年 永瀬 璃瑠さん
また明日 心ぼかぼか 帰り道

すこやか賞

葛川小学校 2年 市原 遥馬さん
ありがとう みんなのおかげで がんばれる

ふれあい賞

膳所小学校 6年 紀平 菜都さん
「助けて」を 「助けてほしかった」に する前に

ときめき賞

一般 角田 緑子さん
おおつっこ 笑がおで広がれ 地域の“わ”

さわやか賞

葛川中学校 2年 大林 甫さん
個性はね みんなが持つてる 夢の種

作文の部 特別賞

*すこやか賞

のぼりぼう

南郷小学校 3年 川畑 人時さん

二年生のころです。昼休みに遊びに行った時に、のぼりぼうをしていました。それで、友だちは、

「一番上まで上ろう。」

と言いました。けれど、のぼりぼうはあまりとくいではありませんでした。それで、体育の時も練習をしました。すると、すこしだけできるようになりました。けれど、一番上まで上りたかったので、また昼休みに友だちと練習に行っている、友だちが、上る時のこつなどをたくさん教えてくれました。

「うでに力を入れて、はなしたらすぐつかむんだよ。」

などと言ってくれました。そして、言われたようにやってみると、だんだんとできるようになってきました。そうして、昼休みには、毎日のように練習に行って、上ろうとしてみました。そして、友だちとたくさん練習して、やっと一番上に自分で行けました。できるようになったので、外へ遊びに行くことも多くなりました。友だちと、たくさん練習して、できるようになって、とてもうれしかったです。さいしょは、できなかつたことが、友だちのおかげでできるようになりました。そして、こんどは、こまっっている人がいたら、助けたいです。友だちがいてよかったです。

*ふれあい賞

一年生の記憶

瀬田北小学校 6年 松田 菜乃さん

私は、一年生の時に体験した六年生になっても覚えていることがある。それは、一年生の時の分団班長にやさしくしてもらったことだ。やさしくしてもらったと言っても、ただ、「大丈夫」と声をかけてくれるだけではなく、登校の時いつも持っていた手さげ袋を持ってくれたりした。

その班長がそうして声をかけてくれたことで、「初めての学校」という緊張が少しほぐれた。いつも分団で友達とあまり話さない班長が、自分に話しかけてくれて物を持ってたりしてくれることがとても嬉しかったのを今でも覚えている。

そこまでは、その班長のことを「やさしい人」という印象だったけど、ある日起きた地震の時に「やさしい人」から「カッコいい人」に印象がガラリと変化した。

その地震は、いつも通り分団で登校していた時のこと。分団と合流し学校が見えてきたところとつぜん地面がゆれた。はっと中学校の方をみると中学校の上にある旗がゆれていた。

そしてとつぜん起こったことにみんながパニックになっているところに、班長が冷静に「頭を守って」と指示してくれた。その地震で、物が落ちてきたりすることは無かったと思うが、冷静に判断して下の学年の人に指示を出すことができるのがすごいと思った。

自分も今六年生になって班長をしているが、その班長と自分が同じことができるように、何をすればいいか考えて、分団の時じゃなくても同じような形でできることがないか、周りを見て生活していきたい。

*ときめき賞

言葉のブレーキ

長等小学校 6年 片山 凜子さん

私は、自分に自信が持てず、あまり思い通りの発言がしづらいことがある。でも、時々その場の勢いやその時の考えをすぐに発言して、相手を傷つけたり自分が後悔することもある。そんなときによく思うことが一度立ち止まってよく考える、「言葉のブレーキ」だ。言葉のブレーキをかけることができれば、相手も自分もより良い関係になっていくと思う。

私が、言葉のブレーキをかければよかったと思った時は、友だちに呼び出された時。その時は、忙しかったので、つい「ちよつと今は無理。」とぶつきらぼうに言ってしまった。後から、その子を傷つけていないか心配になった。さつきにらみつけられたような気がして、余計に怖くなった。謝ろうとしたけれど、今更遅い気がして、ためらった。でもこのままこんな関係になるのは嫌だったから、謝った。その子は許してくれたけど、もし許してくれてなかったらと思うと、とても怖かった。

他にも、家族などにも言葉のブレーキを意識しておけば、という場面がたくさんあった。

そのようなことを踏まえて、私は言葉のブレーキが大切だと考える。これからは、一度立ち止まって、自分が今何を言おうとしているか、それを言って友だちがどういう気持ちになるのか、というのをよく考えてから発言していきたい。そうすれば、自分も周りの人達も、より楽しく生活することができると思う。

紙面スペースの都合により、全ての作文の部・特別賞作品を掲載することができませんでした。作文の部・特別賞を受賞された方で作品未掲載は、次の方々です。

*ほのぼの賞

家族

打出中学校 2年 藤田 怜亜さん

*さわやか賞

戦争と人権

堅田中学校 2年 川崎 柚奈さん

詩の部 特別賞

*ほのぼの賞

ぼくはうれしくて

滋賀大学教育学部附属小学校 2年
川勝 壮真さん

ぼくは、うれしくてたまらない
みんなであそべることが。
ぼくは、うれしくてたまらない
みんなが元気であることが。
ぼくは、うれしくてたまらない
友だちがえがおでいることが。
友じょうは友だちとの
心と心をつなぐかが。



*すこやか賞

心の種

真野小学校 4年 宮本 芽依さん

気持ちが良いと心の種が一つ
あいさつすると心の種がまた一つ
家族といると心の種がまた一つ
笑顔でいると心の種がまた一つ
だけど心が苦しいと
種に芽が出てこない
だけれど心の種をまこう
そしたら種から芽が出てくるから
心の種をふやそうよ
心の種をさかそうよ
心の花をさかそうよ



*ふれあい賞

そのひとこと

南郷小学校 5年 婦士 功奏さん

そのひとことでなかなあり
そのひとことでわらいあえる
そのひとことでのしめる
そのひとことでげんきでる
そのひとことでゆうきでる
そのひとことでモヤモヤがきえる
そのひとことできそいあい
そのひとことでかんしゃする



*ときめき賞

同じなんてない

瀬田東小学校 5年 川端 依吹さん

遅れたって 間違ってたって
自分の速さで 自分の考え方で
わからなくなたって できなくなたって
自分の速さで 自分の考え方で
同じなんてないんだから
一人ひとりが違うんだから
歩く速さが違うように
好きなことが違うように



*さわやか賞

あたりまえ

滋賀大学教育学部附属小学校 6年
竹内 仁乃さん

あたりまえに
朝起きて 顔を洗って 制服に着かえる
あたりまえに
ご飯を食べて 学校に行く
それが私の「あたりまえ」
でもそのあたりまえが
ずっと続くとは限らない
みんなそうとは限らない
次に何が起るかは
誰にも分からないから
だからこそ
今の「あたりまえ」に感謝して
一生懸命 生きていこう



その他の部 特別賞

その他の部は、人権についての自分の考えや学級など集団の思いが作文・詩・標語・ポスターの4部門以外の方法で表現された作品部門です。

*ほのぼの賞

みんなの思い

石山小学校 共同作品 4年2組さん



***ふれあい賞** みんなちがってみんないい
和邇小学校 共同作品 お花組さん

あとがき

今回、特集した「わたしと人権」の作品には、日常生活の中での人との触れ合いを通じて感じたこと、社会の問題に対する自分の考えや豊かな人間関係を築いていこうとするメッセージなど人権についての作者の各々の思いがつまっています。今号の作品をご覧いただくことで、市民の皆さん一人一人が人権を尊重することの大切さについて、今一度振り返っていただく機会になりましたら幸いです。

ご意見やご感想は

T52010047 (天津市浜天津四丁目111 明日都浜天津1階)

大津市政策調整部人権・男女共同参画課

(☎)522812791) まで

※人権を守る大津市民の会は、現在、地域、職域を合わせて23団体が結集する市民団体です。駅頭・街頭啓発をはじめ人権作品の募集や入賞作品展の開催など、幅広い啓発活動を市民ぐるみで展開しています。